本朝千字文 傍注全

リ 5
5171

帝国図書館蔵書

貝原先生遺稿

倭語字類千字文

書物所

文海堂

帝国図書館蔵書

本朝千字文

益軒貝原先生遺稿

傍註 戸川後學

書坊 松村文海堂

日本國號

天地のいまだとゝのうけざるさゝ八、游魚水上に
あそぶ似たりかろくとゞまるものハとして
天地のあるものハ地とする之

諸國常立

天地ぞうくさゝ根ハ財ふあしがいのやう
なるものあるしるし化して神と成る為
づあて玉茅立のそるこせうしを成

諸冊二神

なるきなることハ伊弉諾伊弉冊の二神の
古る淤陽の二ところあてはまるなり

夫婦之根

いざなぎいざなみ二神ハ夫婦
のさいあいとなるゝ夫婦のしゝ
じゝとハいふてもはなり

常祈熊燎

天照大神あまのいはとにこもりたまひしかば八百万の神岩戸のまへにかがりびとあげこゝやこゝをたゝし其時うゝめの命舞を奏し神楽のもとゐなり

細女奏琴

收蛇忽亡

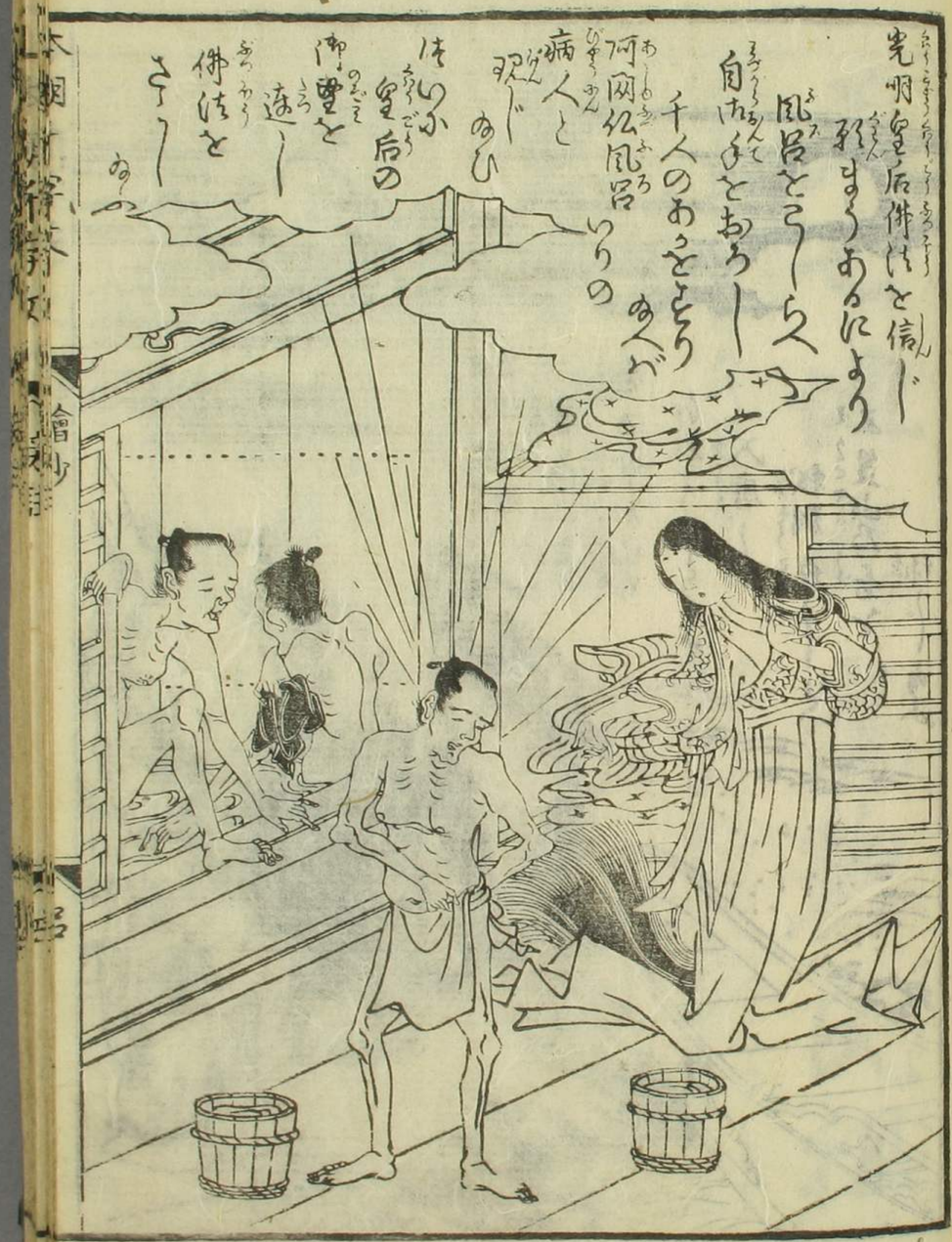
蛇盃高命出雲の国にて八岐の蛇を捉しとゝ奴の高八岐の蛇八頭八尾の蛇を稲田姫をめとりて八雲たつ出雲八重垣を造りて妻籠めの歌を作り八雲たつ出雲八重垣

猿投瀬瘡

長岐出雲の国の弱射を射るひめ大に塩土の翁かあひてこれのみちひの弘法ゆゑ能くふかくこう弱射とゆるあり

龍産鸕茅

長岐出雲の国のはゆゑを豆姫八雲女うがやふきあへずどのゝことを産あり



天七地立　高御産巣日

是ハ天神七代地神五代のすゑり

天神地神ハ吾皇の人の元祖すべはぬしと

熊余邪命位　人皇最初

神武天皇ハ天照大神五代の孫にて

足すべハ神代とやいふ　熊余邪命

のちの人の世

神豫脫毅　虜賊頑滅

神武天皇ハいくさ立のつゆ

隊ハいくさ立のつゆ　神武

天皇迩邪命を大和の国日向の宮より

征伐

大和の国せめ給ふ是月ハ大和のことなり

悪徒ことごとく

虜賊と云ハ長髓彦ハ中集ゆゑ

神武天皇の威ハ

遠近ひびき

大和国に始て

都を建給ふ

寶器在庫

宝器とハ三種の神器之神武天皇別ふ
庫とハそ〳〵神宝をあがめたりゆゑ

晴嵐回洲

せいらんかいしゅうとよむこれハ神武
天皇ゑるさらふのかり岩の地西とかまんあ
ふこんの所ゑるとハとて秘海洲ゑ名付ゆ

湖海当元

岩雲帝の治ゆ近江の国花さけてこう海とあ
門附ふ〳〵山ゑき出〳〵しのひ佛ゑ当といふゑ
のゑ元とハぬつと出るといふ字義あり

将軍松浦

崇神帝の治時にゑに大船と魚ゑ
せむ足軽軍の皮のにめえみ法ゑふいひ法け
船と仍しとり海上の渡自由ゑにしめゆ

顕連艦角

垂仁帝の治時蒙麻のゑてやと弟ゑの宿禰
力ゑてゑを使ゑめ法ゑ立ゑ月本とまゑの始

倭妃齋宮

垂仁帝の治時倭妃といせ斧ゑ
足斧ゑのにゑ斧ゑとゑ川ゑ
ゑとゑ後ゑてゑ

朱雀院奈良へ御幸しありける御時菅丞相供奉しおハしまし手向山にて詠じ給ひし詠秀逸とて定家の百首にのせられたり

草薙戮夷（くさなぎつくしゑびすをころす）

景行帝の御時日本武尊東夷を退治に向ひ給ふとき賊のむかへて火を放ちけれバ宝剣の徳にてつゐに夷をほろぼし給ふよつて草薙と名付

吾嬬想戀（あづまおもひこふ）

日本武尊東夷退治の時さがみの国の海上にて波風あらく其の妃おとたちばな姫海底に入給ひけれバその後東方をのぞみあづまはやと宣ひしより東をあづまといふなり

武内宿祢（たけうちのすくね）

武内ハかくれなき忠臣にて棟梁の臣として長き位に昇進して六代の帝につかへ奉る威勢ならびなき年武内におほせて国境にわかち立てあらためて代官をおかせ給ふ

割正劭畏（ころうをくかさうひ）

彤墀採湯（さうらさぐるゆと）

彤墀とハきんでんの庭をいふ又武内宿祢其弟甘美内宿祢にざんそうせられ中にもくがたち湯を探りてあらそひつひに甘美内ハ誅せらる

壽考宣祀（じゆかうのるまつる）

壽考ハ命ながきをいふ武内ハ成務仲哀神功応神仁徳六代の朝に仕へ二百余歳の長寿にして死して後日本長生の神とあがめ奉る

息長帯姫　仲哀天皇の皇后

神功皇后のはいらるなり人皇十四代仲哀天皇の皇后人仲哀三韓をこうらせ忠あるをこゝ世のふ爲帝しゝ神功皇后をかどの志をはあてこゝかゝとせいこゝろしゝかゝ

応神　応神天皇

赤猪　赤猪蝦夷

蝦夷王とゞかゝを皇后神功皇后これとうらゝかゝとの紀おさいのゝ紀おさいのゝてかゝ坂王とかゝこゝろせゝこゝろ

雲田　雲田現幡

雲田ハ雲田天皇と中て應神天皇の皇子なり爲帝ありしと紀八ッの白幡八幡宮とあがめたてまつる

仁徳　仁徳許貢

仁徳帝ハ紀君ふて世ませ民の皇子を密二ゝの貢とゞ皇子にてのゝさうてるかのゝりは從てゝうゝ皇の帝製あり

安通　安通賞録

安通帝、光恭帝の皇后の妹人帝ゆゝくゝて遂ゝ耐世ゝ遂ゝ世ゝ帝世ゝ我せゝうゝ人ゝ龍ゝうゝゝ皇ゝ帝ゝ世ゝ帝ゝ世ゝ

武勇家衡

八幡太郎義家大軍を引率し一ノ宮の城に寄せ敵の伏勢ありと
こゝをうつて
さつしやのみ
さつとる勝勇あり

雄略荒猛

雄略天皇は日の皇子にあらせられ
とぬこのむしろのおそろしきものと思ひ
つゝしみ給ひ勇力あり

浦島蓬莱

丹後国よさの郡筒川の人浦嶋子海に釣して
龜を得て女になりて蓬莱に行き
と云て三百余年を経たりと伝へ

豊受移桐

とようけ
豊受大神宮の社殿
桐の木にて造り
今の如くなり

石菓玉善

石菓と云ふ菓子は垂仁天皇の時
常世国に行て橘を持帰りて
菓子となり

烈劈孕胎

烈しい武烈天皇の時
此妻を孕ませ
女のもつて
さるぐく要約とする

脳獻虎皮

かしこでの国に捕使がる
海へ投げ
国おて我子と虎かくひ
虎を引き其皮を日本へ持ち
帰りて

厩戸信仏

厩戸ハ聖徳太子の生るゝ人仏法を信あひて寺をとむくつくり給ふ遠ク向ふ寺と号をとらせ日本ものもじめなり

守屋率軍

守屋大連大ごとをもつて神ぶつをほうしてほうぶつをこのとろハ様々この寺度給ひ軍をおこしたるをてきたいせ史君人ひとつて悪人の名をこりーなり

秦士優蔑

秦しやうこれ河勝のるゝ太子六十六番目の歌どきさゝみ河勝とーて面と号き舞ひ是さるがくの始めて今の楽人の世んでなり

逢磨班鳩

聖徳太子斤岩山の逢磨をてかつくるものゝ名鳩ホたゞまーと云てふ仮よおのひ伝義をあらりて此者ありうの此人逢磨の化身なりとい人

穂姓権柄

穂姓とハ穂おのゝ名を其子入鹿こそ物部の大臣なることゝてそう氏権威をはいまゝ用てたる子の世子蘇我大臣と称し一族逆さゆぐなり

藤原昇進

大織冠鎌足沖臣氏みて入鹿を亡ぼ此ホ大臣のつく改ゞたとけのようう中臣の姓を藤原とをーゆ人是より藤原家のさうとなる

年號大化 歳瑞白雉

孝徳帝の白雉長門の国茅野の郷の白雉といふ
りの白き雉ともの是めでたきことなりそう
ありとて大化をあらためて白雉元年とせり

皇極天皇そく位ありて二年きのえの己
のとし号大化元年と改め日本
年号のはじめなり

役蹊金峰 寮奠孔子

一 役とは役行者のなり名は小角といふ
めて山伏のなりはじめ金峰せんかつ修行
入雑行し今の山上をひらきぬ

二 大学寮ととよつゝこの学問おこる文武の比
始て孔子を祭りあ〳〵此君仁をかゝ
世代なり孔子いかゝの聖人なり

和銅鑄銭 養老湧泉

元明帝の和銅元年むさしの国より和銅を奉る
年号を和銅と改む其ゝ銭をも和銅
てゆゑに年号銭をふくちゝめなり

元正帝の時美濃国の民子母澤
の国ゆ出る酒の泉を飲て帝御孝の
養老の徴となつけ年号を養老と改

舍人撰書紀

舍人ハ舍人親王のゆゑ名の書かゝれて神代より持統天皇までの紀録を作りその帝の登と日本書紀とゐづくしまり

橘輯萬葉

橘ハ橘宰相のゆゑ中納言家持と共ふでて萬葉集といふ歌書と云くみあり其後ゆゑ有て隠居しあり井上の右大臣といふまり

帝建分寺

帝ハ聖武天皇のゆゑ仏法をきはめ給ひ六十六列ふ大寺一ケ寺づゝ建立しあり因分もとゐだけあり

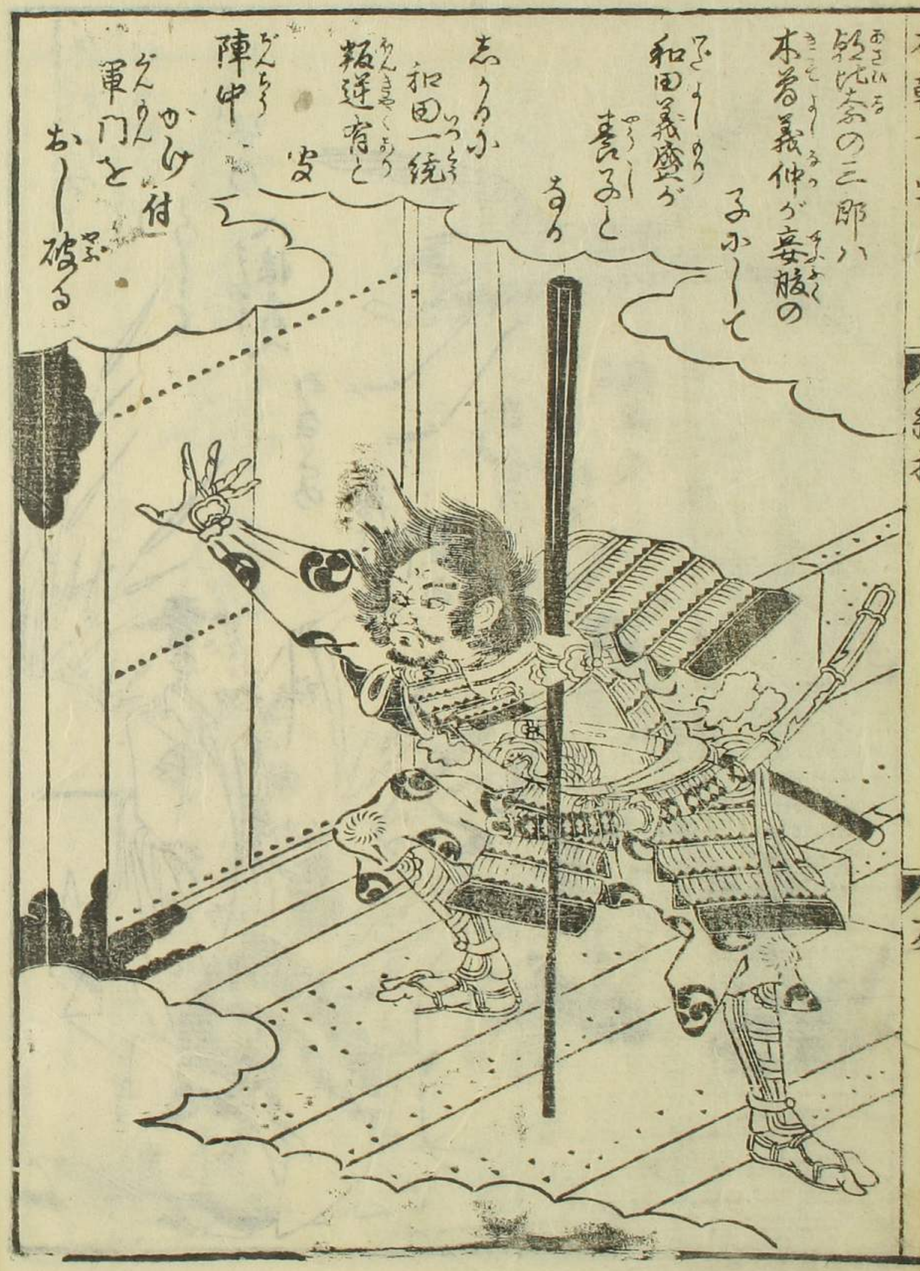
后造浴室

后とハ聖武の皇后光明皇后のゆゑ仏法を深く信仰給ひ浴室を造り給ひ千人の垢をとゝりあらふの湯あみの始まり

古備婦唐

古備ハ吉備大臣のゆゑ入唐ハ遣唐使のゆゑ十九年其後帰朝あり唐土にてすゝひ給あの平仮名をこゝろかきくりこの仮名づかひを弘め給ひ諸人かゝしあり

仮乃仮名



行基菩薩勅置丈六像

行基ハいづみの国大鳥郡の人なり志氏の子なり十四より出家して諸方を修行し法華を唱へ川あるときハ橋をかけ船ハ路を造り池を掘り農民のたとけを思ひ寺の勅をうけ一丈六の大像弘仁のそ造り奈良ふり已おそ行基徳あるふりほさの号をおくりたり

仲磨曜仰慕御笠山

安倍の仲磨ハ元正天皇の時学問のため唐土へ渡其後孝徳帝の代日本へかへり人倫和国の道を教ゆ唐土人明朝といふ船法をさして送り出て別を惜む仲磨月を見て詠ず

なつかしく天のそらゝふりさけ見るまかとぐ船の月かとと歌

新尼蓮絲修曼陀羅

新尼とハ樣ゝ殿の右大臣宗盛の姫中将姫のなり年十六の時和列當麻寺ゆ入て尼となり絲ゆ糸のことをかぞへ給ふ人ことにうひの子供の心ゆ蓮の糸をとりてすんぐりをなるしゆふとなり

押勝雄廢 弓削被廢

恵美の押勝孝謙帝のにてうあひあつかりしに弓削の道鏡をらひらをとり押勝敗走をうりをいさこをり法ゆふむちんを起こと

弓削八乃鏡のくるえをとりて天皇とまごい奏、姓巫のくざるか天皇かのぐりの四やさうをれた坂上前田丸つのふ乃鏡を下野へ流しのみ

遷維山城 卓陽台嶽

二人王の十代桓武天皇延暦十三年か都を今の平安城から山のかなたより方く遷都ぐ

さ〜平安城ハ京といふなり

台嶽とハ名高い山のくるえ陽ハ陽樹のるふて陽をとりとハ始てきとひらくるふ用ゐるなり

僧教大師ひ名高山をもて延暦寺をたつみ

坂上賴恵 剣清水剥

坂の上ハ田村丸のくるり賴恵ハ延結のひく名あり千手観音の像ぶろく桓武天皇延暦二十ゼ年か今の京の清水ぬんをうあり〜なり

豆利
義淺
小山の
隙居し
庶花なと
いと
古といとなる
金閣と謎のひ
日多か
拙奥か愛しのよ
今世俗か金閣なと
此田跡なり

護命弘法 肇伊呂波

護命ハ弘法大師の法ろうのみ護命ハいろはにほへとちりぬるをすでつくり給ふ弘法大師の法ろうのみとのひ給ふ

茂井通経 惟喬遯俗

紀の茂井ハ茂井の人なれ女の配せしめしもいさそ迷まとをくかはく級若経をどくじゆせしもとん

惟喬親王ハ惟仁親王のゝ〜ねふつさたりのよりつのふ山ゝりして浮世をとん遯りのんじやとなりのみ

業平媚色 小町禱雨

右近衛の中将在原のなり平ハ世をつさうはしく思ひのうひとびをたらはらふひとなん

業平町者のちよくふようり神泉苑ふるねく雨をいのりひとびをたらはらふひとなん

臥香感鬼　陽成奔獸

郡のはろ博学多才の人にて結をはこうて鬼神をとりこめんせむるやどうのようなる菅丞相の師匠え

陽成帝ハ多かいろくの獸をあつめて鬼こしかの天子の仙合ざる所為をこの世のもとをこの人

鼠官齡蘭　眺聲塩竈

ことるのおとで、よそひとるのれで巻後かおりんで陸奥ちうの塩がまを松に象徴ふあ〻ヒ　あやくみのでいおもろく

あぜ〻ろ〻ものこと　あの人今の六条殿の渕ハ〻ねのまのあと之世おを河原の塩とる

菅公幼敏　轉翼鳳闕

こういこけうをてかーとく

とがいろの乃真公ハでくふあ〻ざるバ酷酷天皇の弱か若大臣ふあにのぐりまつをるを

ことりあるすくのようちるふうり風闕とハ内裏とのこと

臣勢工畫 道風筆

臣勢の人皇ハ画工の名人にて清和陽成光孝宇多の四代に仕へ絵所と称す 宏大納言公任卿の絵あり

小野の乃風ハ天下三筆の内の真一人なり世のよく知るふの絵あり

實緣已編 古今漸集

実緣とハ三代実録の略なり清和陽成光孝三代の史なり実録之右大臣藤原時平大臣の長行此書を作る

醍醐帝の御勅ふよりて紀の貫之ら古今集をつくる

蟬丸琵琶 博雅知音

蟬丸ハ武部口敦実親王ふ仕へ管絃のみちに長く後世ふ伝ひ琵琶ひくふ妙を得たり

博雅の三位和琴を好ミ琵琶ふ秘泉啄木の秘曲をうけ妙音を得たり

相馬純友 反乎紀藤

朱雀帝の治字天慶三年相馬の将門ハ下総の国の内裏と唱へ武蔵ハ伊豫の西海むらんと称ハ下総藤ハ伊豫なり

秀郷慶幸 討於海陸

将門うつてとして六孫王経基の副将軍秀郷ハ東国の武蔵むさしの国の藤原と一て西国にたりむらむ住あふうらろぼかいぐんせ一とうなり

鎮威聖廟 傳者輪策

菅原相の十孫菅原秀時より時時学問を以て時の帝へ係の策文となり友人なりの者を停止せんとの勅ひあり恵亜の名ハなり

淨藏祈塔

淨藏貴所ハ三好の清行の第八の子也八坂の塔のかたむきたるを行力を以ていのりなほしたる也

源順識字

源の順ハ博学にして和名類聚抄を作り日本にてはじめて文字のよみをつけたる也

式部辭艶

式部ハ紫式部也女なれども書を学びて源氏五十帖を作る其文章至て優く能続みせり

納言才英

清少納言は枕草子をつゞりて才のほどをあらはせし才女也

陛下落飾

陛下とハ臣下より天子をさしていふ詞也花山の院はてうあひの女御こきでん弘徽殿のかくれ給ふを悲しみ花山寺に入てかみをおろし給ふ

晴明得占

安倍の晴明ハ占の名人にて天文を考星の光をみて花山院の御出家しはふるを奏聞ありし奇妙の易者也

佐理絶筆

藤原の佐理とハ小野の乃風の筆跡とする〳〵ひ後唐土の王羲之の筆法を学ひ本朝三跡の筆法出るり給墨とハ能あるいハ

匡衡宛書

大江の匡衡と佐理と同時代一条院の人附博学かして文章の博士かのゆゑ此時代よさひ〳〵より学まあるくハ多〳〵とりてそやさる

雲湯構鑾

雲湯とハ雲の上の湯殿とハ建立とのゆゑ鑾とハ鑾輿の乃長法寺ところ〳〵としてその結構いろ〳〵方法より七位雲の間白と移と

朗詠纂述

朗詠集ハ大納言藤原の公任卿の撰ぶ給ふの三の藤ふつ〳〵ふ敵花山一条三条後一条と数代の朝ふ作ゆゑたまふ

憶配所月

第指中納言源敦基ハ初妻より受問と好ふ給ふ歌とのくゆゑ考ふ月ゆゑの恋ありて思ふ也配所の月と称て陳ふバ面白ゆゑんと無ふと

設宇治門

異白彩通宇治平等院と建立〳〵ゆゑ門ふ向とゆゑ〳〵〳〵拾遺ゆゑ大江の匡房歌ゆゑ門とそゆゑとなり

貞任起亂

奥刑安倍の貞任身のたけ六尺有餘の大ゆゑ徐姫の大軍と共ふ七尺ゆゑ大力なりゆゑの彩時と共ふ軍とかこ〳〵囲とさこうと

豪極唱凱

高猛とハ源頼義の伐ふハ陸奥の帝義家ゆゑ也とて六貞任宗任等と征伐ゆゑ長力年後こゆゑと十二年の大合戦おりしとう

顧敵逃向

義家ゆゑ攻の時貞任と退けて哀〳〵ハ不ころひにたりと匿ゆゑと貞任ゆゑ〳〵て年を経ふゆゑ〳〵ふ向とつゞ〳〵とう

吟梅免罪

宗任ゆゑ〳〵ハ国裏ふて梅の花とゆゑ宗任と匿ふ秋雲の梅の花とハ〳〵ゆゑ〳〵ゆゑ〳〵ゆゑ

景政先鋒 鏃貫血眸

強盛の権五郎景政十六歳の時奥州の城をせめんと鎌倉より義家の右の眼を射るおしもとうせどもねらるゝ者とその矢を抜て射返せし一勇士なり矢を射るものハ為海弦三郎といひ後人交記ハ為朝に

射鵰紫宸 殺狐那須

鵰紫宸とハ禁中をせしの人迫捕の使乃ち時怪鳥あつて殿上小松殿の軒に作付るを平つ小松殿おしもと家ものゝ射殺の作付るを平つ小松殿の殿上人に勅せしもとその狐と射てろうと

義福籠屋 保元鼎沸

義福門院ハ為朝伯父家弟の女院之此女院迫捕使を産あるより家使院の位を不レ一我子迫捕使を即位るさしめる

保元ハ後白川院の年号之家使院つくるをもて位とあろうさもあしを憚ひむしあるより天下の大乱となる依て富ハ保元の乱さいふ

嫡庶爭統 親族失倫

嫡ハ妻腹の子妻腹といふ庶ハ妾腹ゝ子ハ妾腹ゝ子ハ迫捕使の嫡門院のざんよりの出兄弟の軍と為る

家使院内むろんかもいて源の為義を出て夫婦ゝ迫捕使の為義ハ後白川院方為義ハ家の方とりしるゝ

回胞鉾盾 叔姪鵰弾

回胞とハ兄弟の子之鉾盾とハ中あく敵味方いとざしと鎌西八郎ハ兄義朝と敵味方ゆえ為義ハ二ハ為朝ハ為義の八男ゝ生まれ

叔姪とハ為朝ハ為義の弟之為朝ハ為義の子之為朝ハ為義の弟之為朝ハ為義の子之為朝ハ為義の弟之為朝ハ為義の子之

侍賢夜敗

伯夷ハ侍賢門歌いそのゝ之平治元年春原の信孝源の義朝とかくうじてむりんせ軍之思くようこゝ平治の孔をいゝ

義害悪斬

義朝ハ義朝といつ悪ハ悪源を義平とゝつ也義朝ハ尾張のくゝ落ゆきさてゝ庄司か害せらゝ義平ハ都ゆそゝ人らを殺さるゝ

池憐妾愛

義朝の三男頼朝ハ池の孫尾かたとけゝ伊豆の国ゝ流さるゝ妾ハと終しれおとゝよ我みと脇りゝゝ敬清盛ゝ妾しるりとゝみるり

傲功樂岬

平の清盛平治の軍とゝつ也ようゝ成功昇進ゝ大政大臣の位ゝのゝり其威勢ゝ不こゝり無度の岬ときつさゝゝ

諫爺全孝

小松の重盛又清盛の悪乃ゝるとゝけれるゝゝいろゝゝに諫をゆゝていさゝ考ゆとゝ成ゝさ也世の人賢人るゝとりてゝらやゝゝ

牛若潛去

牛若九三歳の時清盛ゝ召国ゝて出家せハ命とゝゆゝんと鞍馬寺ゝ逃也ゝ信西ゝ命すて鎖れゝとけいこて十七の時ひそゝゝ奥列へ逃さゝゝ

僧都孤憐

僧都とハ後宮のゝ之後宮康頼成経二人後宮をゝゝろぼさんとたくらゝゝ鬼界ゝ島へ流さ也二人ハ殺ゝ後宮一人残ゝ孤さゝゝ

騏驥嘶憤

騏の息伊豆ゝ仲綱ゝの下しゝ多る馬ゝ平の宗盛ゝそゝ乞取ゝ仲綱と也ゝ怒ゝ宗盛ゝ怒ゝ仲綱ゝ殺さそ刑也と大ゝ憤又とゝゝ也むりんに

扇芝堪悵

源二位頼政ゝ立後ゝ宮ゝ多る金の花ゝ咲ゝ也ゝ宮ゝ花ゝ咲ゝ宇治ゝ付ゝ也ゝ今に和の芝とゝゝ古歌とゝ也ハ宇治ゝ付ゝ也きゝゝ

文覺院宣

こゝ雄の文覺平氏の者とゝゝ院宣と也ゝ院宣ゝ也ゝ頼朝の文覺とゝゝ也ゝ義経ハ奥列へゝゝ義兵のゝゝ

昆季勃興

昆季とハ兄貴の呉名之兄頼朝ハ伊豆の国に流ゝ弟義経ハ奥列へゝゝ挙兵ゝ弟ゝ兄ゝ仇と報せんとゝゝゝ

冠者據險　別當深鬢

冠者は木曾義仲のゆゑ佐々木氏のえぼし
なて信列するゆえに敵者の金義中
ゆもとるるくりかの弧かえ小勝利をゆ

驕慢倍熾　類屬怠拉

木曾義仲驕慢にして平家を西国に落
共功によつて頼朝軍と称せしゆえ
のがいて平家ふるくとゆをふるいしる

四傑精疲　群卒競攻

傑しハ方人ふとうて万りのとらゆ義仲の家
拉ハ今丹を堀撫の丹堀天王とゆ
木曾の大軍かて比て力ほうもしゆう

巴警開左　旭没粟津

巴ハ義仲の妻ゆ男まさりの大力かて大軍
のゆと只一人るゆりかけるりあざ
働とるせしゆ男方とへ和歌とのふがふ

一
旭ハ木曾よゆ仲のゆ粟津ゆて流矢ふ
あてりはいふおぶしおりね

鶴谷寄計　旌旗漂濤

一の谷逆おしとふゆう頃麿の門裏ゆりとそ平
家の一門ゆとくく西海へおつゆさしとゆう
旌旗とハ二字ゆもおとしとゆむゆう

刀如破折　巖俳壓卯

平家ハ平家と西海ゆあひぐとゆいとゆ
たゆへいとゆと仮てたまごとお
ゆうゆやとしゆう

數戰力屈

平家がとて勇士ありこの三人の者ども
とる笠伏弟の小猪武ハさぬきやハ
とうし弟共かさむく連かてまけ軍とする

遲延且麿

義経無勇の大ものと平家とあひ付ゆゆもゆるぬ
赤目う園担の海まて遅延ものとるこころにせこ見とハ
其ものとうかを見てとうまとしあきやうちうかるり

沉溺惨焉

沉溺といふつとうぐくとまむ惨焉といふく
ひとひの平家の門とぐく根の浦かとるげ
二十余ものの家もあの泡ときそてよいて因きとえ

盛衰的然

的然しい志つうとうくくるの之平はかをうく
源氏さうんかをういつを盛衰ハ因ものかとき
ぜんとうゆるとるり

視彼亡蘇

義経ハ勇さうとるり平ものを思ふうとく
義経はまつるを気張くすてけんざいの者は逆を
ちうあるとぐく思ひ出も驚るりてるり

覩此冠雛

義経ハ勇さうとるり平ものを思ふうとく
兄弟和とあくまて兄のやうにおりひ付ひかを
正後とうとるにはかい兄とうくるり

挾恨逆櫓

掘原平二家財さかうのちんかよつて義経と軍
狩ぎうんぎんて逆櫓よりそひろとてうとえ

遁難東蝦

義経場みとうとも逃かう後云ふうとうむ
宗とを逆門の義付かあひ右弁の奥ふかを後か
蝦夷へにるとるり東蝦ハるそのるとるり

靜飄愁嘗

義経のてかけ靜かかつこの伝者かて靜のとを
あり時義経の親雄のるのを親ひかを義とを
きとうるし紙ぞくまとるり

娼惜空契

平伝ハ伝の里のうのを世かあひ世のすとを
まてうとかくあるりのやうとかくむ
きとうるし紙ぞくまとるり

富嶺旋將

後多時建久に年の月文治二年の月文治二年の月
下向して富士のぬきがりとてたのとをとると

曹我復仇

曹我兄弟ぬきがりの人夫小給を入て父の敵工藤祐経
とうるり勿重もよくぬきかのかをとるり

孫倉棟梁

[illegible]平家をうちほろぼし功かゝりて日本国追補[illegible]の官かゝ[illegible]相列[illegible]ゆくゝ小安堂と孫梁と号[illegible]ことゞくこれのよかりとて[illegible]

板額拒橋

[illegible]板額[illegible]盛[illegible]

北京掛鹿

[illegible]

鶴岡彩紙

[illegible]

泰時条目

泰時[illegible]

定家百首

[illegible]

更廣真宗

[illegible]

受持妙典

[illegible]

尊圓入本

[illegible]

玄恵庭訓

[illegible]

宗鑑閑繋

[illegible]

阿弱刺怨

[illegible]

圓不有始

をべてくとつよりのハ始ふおりひ立時大るの
るり始じむかよりあぐくふかつく掘拾分ゲ
はしめのくして後めーきとつよ

必女克終

さまこども真の堅なへバ山のもん堅まて拭ゆ
のとこと長まといくつらるのるゆきとのゆそこと人
まで後しこふきこのるー　とるゆ

智至結爰

後酩酊者笑を不おいてあかヒのひくる木の
下ハ玉産ありと爰人ゆひを爰と茲房は
ゆ人めひて掘成とハふ名拾とねのよるえ

延尉奉籌

延尉とハ武皮ゆて拾成みこ後之掘三成延尉の友ふ
のゆりるゆそ後ごいこの天皇ふつかてゆくの
計畧を以て大敵をあいるとそ人るとすり

剣櫻賦詩

後ごいこ者さゆ入ろぐゆ源彼の玉流さま
あ一の附後二帝さる後ハ弘勢ふ系れたとめ
強さまに庭の掘ふ結と出者へハ力と付ゆる

架楫淌謀

宇治之公領大佛陵奥守百万の軍勢と以て平泉
藤の城をゆむかりこと掘へ宮と淌ゆんとに三成掘
ふ大とほゆ大ふ敵軍とるふ　ませ　とるり

忠誠獨歩

掘三成淌川のそ付配ゆ心家ふおいて八古今ふ
ひいで日本に呂人と称るゆを獨歩といゆ

南北蹤祇

南朝後ごこ者ゆ入ゆ後村上の天皇ゆ
小松ハ都ふむ後ハ光明を立ふ天ゆ立
ゆ人ゆ代ゆ北ゆ人蹤祇とハ位ふつくるり

足利跋扈

足利ハ氏掘三成討死の後より小弱の天ゆ光
明ハとりゆ多り結方のいるふ功あるふかゆ
みゆりふ拾威をさゆんかとろゆ多り

補裔徽猷

補裔ハ掘三成のゆ孫とりゆ人ゆ之正徽正後ハ正勝正
之ゆ代ゆる忠臣かるまるりかゆう人ゆ
ていふ者ゆをとげゆ多かくせるり

兼好寂寞

兼好のかゆハ那吉田ーのふ人引ゆこ
ゆけんかゆとゆるゆるとのふ人をほる

弓俊制禍

弓俊ハ公家の人ゆて多慈の仲秋ふ四ろ
今川ゆ後ハ公家の人ゆて多慈の仲秋ふ四ろ
るゆをかさゆ人らる世ゆ用ゆる今川足るり

魁樹鹿苑

魁樹と云ふは別名を鹿苑と云ふ豆利三代義政公ふかく孝行の誉を延て名つけて鹿苑寺といふ

賀領文弼

豆利三代義政の時細川勝元畠山基国彩波義敏三人かたらひて賀領文弼と称して密謀のあるを

一体戯談

一体宗純和尚の門人孫弟子にて俳諧の人孫弟子にて俳諧の人孫弟子にて俳諧の

敬容人人

人ハたゝのごとくなれハ左ホのごとくなれハ弱よりゝ〜ひ然れ共の接頭うすく名某を恐れ敬ふ心を一向たゝひる仏ほとけ家ハ小敬し

鄙黨凹凸

鄙黨ハ悪人どもゝ〜ゝ凹ハ中くぼとゝゝ凸ハ中ゝるしよひ細川藤元ハ名字全部ふおいてかゝ腹する時ハせなどゝゝ凸ハ大小名ことごとくこれよりのこと

服賓縣觀

服賓ハ家ハ時分ハ不ハよく供奉して縣の大油ホ拵ひ〜くいせる感をたゝくいよ

貴君弛制

上下ゝんざいハ世ゝ乱れ弛制の濫の中ホ〜ゆ〜ゝく徳も威勢もなきこの時

幕府雙峙

幕府ハ武将の異名ゝ此時ハ足利家全盛ハ武将公を立て武将と細川藤元ハ武将ゝ公と名遷ホ西ホ武将ありしまをとゝ

京畿潰動

武将ゝ家ホ立て家全盛元亀の頃ホ軍ゝとゝる十一年ゝるゝ京中のさゝ〜ゝ民大ホゝ〜む

旆慓退敵

旆慓ハ旗ゝ慓ハ〜ゝ敵ホ元亀ゝ年家全盛大小名ホ〜ゝ〜ゝ

沽候互覇

覇ハ武将の偉ゝ互ハ自分の接頭ゝ〜ゝ卒ハ列の大小名ホ〜ゝ〜ゝ天下我ハの世ゝ

紫辱失端

紫ハ〜ゝ辱ハ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

種玉連歌

種玉ハ種玉庵ト云家紙の一名なり家紙は紙屋ともいひ紙屋とは紙を狂歌とは連歌の式とさとむる人なり

珍貨堆茶

呉利茶は武蔵を始め茶尚ほ西ぶり東山殿の頃を茶道具とあはせて茶類を云ふきハめるなり

燔圍溢觴

東山殿拾遺ほ色おごりとなるを云ふ酒を盃に盛りて茶の湯とといふものを始めしる是なり利休を祖とす

肖栢逸遊

肖栢ハ牡丹花老人の校名なり池田の邑ほ引絵巻を活し香と花と三つとこの老ふ牛の角小倉橋をぬりのりする紀たのこしく人なり

芳茗薫茶

茶道茶とこのところとしより茶茶ところあり茶のゆしいなりとはじめとハ花茶こいなりなり

禮則準繩

小笠原氏庫くみ当唐土の礼法とやまとくらべて日本の礼法とにさとむ今の世ハ武士ものゝ礼法小笠原の家とさとむ

祐乗彫巧

後花園帝長禄年間祐乗細工の名人なりしとけのりとの名をもつじゆうと音ひとこそ名あり彫刻と称し世ほゆらしゆる

観世流曲

観世新阿弥ハ青蛙ひのとなりとこそ武蔵義政の御使ほ叶ひしなり林といふなりはしまた

早雲鷹揚

伊勢新九郎伊豆の国小田原の城をせめとり小僧新九郎と云ふ後剃髪してお雲と名のりぬせい鷹ぶりの色足と鷹のつさわひかたとなり

兩板猴貪

あぶとハ二板猴貪二板猴貪ハ日し氏かとあるから年来いさたとこと生ふるあひらひあふる猴のごとしいはむるなり

鱟顔念西

細川家ほ武家伯耆ハ勇者之旦那討死ほ家ほて二人ふりさかれさと尾ほ所の海へとづむ甚ぶくろん鱟とるとを俗村がふして

鱟贈島流

天文八年薩刑十〇ほ俗村ハ家ほ鱟の船ほ乗りとすて俗のる旦兵船黒ほ鉄砲と撃ちて日本てこうやう流巡路へかつほて鉄砲を多流とかくなり

松並販浦

松並ハ天帝ハ浦賣ホテ色ガ後賣ホ立ル國ヲ
ホ和ヒ立ル主人ハ後ノ義ヒ所ヒ戻ノ國ヒ
ひ為ハ乃ニ一ト後名ヒ

中勢死節

平ヒ中勢ハ織田信長ノ弟先ノ信長ノ弟ノ
拾郎信雄ヒ中勢ヲ立ルホ伊勢ヲ攻入ル
但忠義ノ名ホ上ヒ知ル名ヒ

各境悪給

後拾遺後ノ良後正親町後ノ君ホ乱ル
とのゆ世ノ君ホ乱ル時代ノ歌ヒ

毎棚墓奪

撫子ノ陣小屋ノ名ヒ
とる此時代ハ我ヒ軍ヒ

窺聟侵岩

ノ主ノ君ヒ九郎氏ヒ又盛城ヒ
賊ヒ

烏合瓦解

烏ハ多ノ人ヒ
ノ人ノ信ヒ

駿遠并呑

駿ハ駿河遠ハ遠江ヒ
義元二ケ国ヲ威勢

濃尾睡眦

濃ハ美濃尾ハ尾張織田信秀ヒ
ヒ

陣摺甲越

甲ハ甲斐越ハ越後ノ
ヒ

陣摺孫異

孫ハ孫子ノ異ハ異記ノ
ノ信玄ヒ

兄擢霜髪

松永弾正久秀ハ京町ノ大和ノ
ヒ

弟規俳諧

松永ノ弟貞徳ハ兄ト
ノ

壯膽雷震　藏肝懾附

天下大きふ孔とてる時羽柴秀吉出て四を
ふるひ諸軍をまつけ[illegible]壯膽とハ
武ねのなくなしきなり

懾肝懾附ハ[illegible]のなろ[illegible]
[illegible]おくなしきハ[illegible]
おくほそ[illegible]

愛偃茲屠　新從鄉暮慮

秀吉の武威さんなる更諸国のもてこうふる
ものハ[illegible]くもてこうなびきみもさがハざる
ものハ屠とのみてほろぼしたくとるなり

[illegible]秀吉の威勢ふてきるくもてこうなびくなり

聚樂擁殊　醍醐鋪綿

聚樂の居ハかくもるたけつのうまそ金銀
珠玉とりしめくるとなり

[illegible]

高麗頻戰　戴塚尚存

[illegible]らいハ[illegible]せんとして文禄元年大軍二十余
万とりつてくせんふせめ[illegible]せしるなり

朝鮮せいばつ[illegible]時日本大小勝て唐人の耳鼻をそ
ぎて持ゆく都大佛の前ふ耳塚をきづくむとなん

林氏鳴儒　彌心幽樓

林氏ハ[illegible]時代の儒者之初かよりの学問を
この[illegible]ふ[illegible]とつけ[illegible]
[illegible]書ものなく伝かるまるさりのなり

[illegible]草の元[illegible]
[illegible]草小閑居[illegible]
[illegible]偽なり[illegible]草の[illegible]

沼運循環　朝野扑躍

[illegible]とハ自然と運の[illegible]順環[illegible]
[illegible]

[illegible]とハ[illegible]
[illegible]

邦域繁昌　餘光永疆

四海をこの国にあつまりもよく生業をつとめ代のうんぷをもつて邦域といふ世界といふ系之

餘光とはおろかなる人の光　君のやさしき恵みを受て歳まておさゆるとめでたき世代のさかりはのちとなるべしひろまる之

歷史提要

史とは古今の事を記す歷史といふものは陰陽の理を考へるものなり

やまとのくにのふみをあげ　とうのふみをあげ

誡平童蒙

賢人の立身出世もおさなき時よりの誡かなるべしこれ千字文もあざかるべきものなり

勸懲捷徑

勸懲とは善をすすめ悪をこらしめるの意捷徑とはちかみちとよむて省かるよりの意なるべしこれ千字文を作るとなり

勤哉習讀

勤時よりよくかんがへとけいこはどは学問をきわめ賢人はかしこかるべしとかんがへるべきものなり

素讀

教訓千字文

此書は四貝原先生の草稿にて遠国の僻地にて人代よりまでの風俗を考へ世の盛衰を考へ賢愚を考へて子弟を教ゆる顔字と押ずくめ同字とも書き初学に便利と沢

大坂心斎橋南、三丁目

書林　敦賀屋九兵衛　版